1:25,000 活断層図　濃尾断層帯とその周辺
「大野」解説

濃尾断層帯は，両白山地から濃尾平野北方にかけて概ね北西－南東方向に延びる断層帯で，温見断層，濃尾断層帯主部，揖斐川断層帯および武儀川断層から構成される（地震調査研究推進本部地震調査委員会，2005）．本図には，濃尾断層帯を構成する温見断層のほか，白椿山断層，殿上山断層，松ヶ谷断層，志津原断層などが記載されている．

温見断層は，福井県今立郡池田町から大野市南部を経て岐阜県本巣市北部に至る断層である（地震調査研究推進本部地震調査委員会，2005）．本図においては，福井県池田町持越付近から大野市の雲川ダムの南西まで，分岐断層を伴いながら北西－南東方向に延びる長さ約 14 km の北西部区間が記載される．本図葉内で第四紀後期の地形面を確実に変位・変形させている箇所は確認できないが，さまざまな大きさの河谷に極めて明瞭かつ系統的な左屈曲が認められるとともに，断層の左横ずれに起因すると考えられる河川争奪跡（風隙）が多数認められるため，左横ずれを主体とする確実な活断層とした．濃尾地震（1891）時には，本図内の温見断層沿いないしその近傍の 2 箇所において地震断層が出現したことが報告されている（松田，1974）．

本図の北西域にはいずれもほぼ東西方向の走向を持つ白椿山断層，殿上山断層，松ヶ谷断層が分布する．白椿山断層は，本図の北西端付近に位置し，福井市蔵作町付近から白椿山の北側を経て同市鹿俣町付近までほぼ東西方向に延びる長さ約 8 km の断層である．第四紀後期の地形面を確実に変位・変形させている箇所は確認できないが，河谷の系統的な右屈曲に基づき，推定活断層とした．

殿上山断層は，白椿山断層の南側の福井市西市布町付近から殿上山の南側を経て鯖江市尾花町付近まで，ほぼ東西方向に延びる長さ約 8 km の断層である．第四紀後期の地形面を確実に変位・変形させている箇所は確認できないが，白椿山断層や松ヶ谷断層と比較してもさらに明瞭かつ系統的な河谷の右屈曲が認められるため，右横ずれを主体とする確実な活断層とした．

松ヶ谷断層は，殿上山の南側の池田町松ヶ谷を中心にほぼ東西に延びる長さ約 6 km の右横ずれを伴う断層である．やはり第四紀後期の地形面を確実に変位・変形させている箇所は確認できないが，河谷の系統的な右屈曲に基づき，推定活断層とした．2007 年 12 月 21 日に発生した M 4.5 の地震の震央はほぼこの断層上に位置する．この地震時に地震断層等は確認されていないが，岡本ほか（2008）による余震分布は概ねこの松ヶ谷断層に沿

っている．

志津原断層は，温見断層の南西に位置し，福井県池田町志津原付近から足羽川（あすわがわ）沿いを北西－南東方向に延びる長さ約 3 km の断層である．第四紀後期の地形面を確実に変位・変形させている箇所は確認できないが，河谷の左屈曲等の地形的特徴に基づき，推定活断層とした．

巣原峠（すはらとうげ）から南東に延びる断層は，池田町と大野市の境にある巣原峠付近から雲川ダムの北側を経て南東に延びる長さ約 5 km の断層である．やはり第四紀後期の地形面を確実に変位・変形させている箇所は確認できないが，河谷の左屈曲や鞍部列の地形的特徴に基づき，推定活断層とした．

（千葉大学准教授　金田平太郎）

引用文献

岡本拓夫・平野憲雄・和田博夫・竹内文朗・西上鉄也（2008）：2007 年 12 月 21 日に鯖江市東部付近で発生した M4.5 について．月刊地球，30-9，431−438.

地震調査研究推進本部地震調査委員会（2005）：濃尾断層帯の長期評価について．
http://www.jishin.go.jp/main/chousa/katsudansou_pdf/60_nobi.pdf（2018 年 3 月 12 日閲覧）.

松田時彦（1974）：1891 年濃尾地震の地震断層．地震研究所研究速報，13，85−126.